

令和3年度 第5回広島市感染症対策協議会

【日時】 令和3年11月15日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
堂面 政俊、増田 裕久、長岡 義晴、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

（1）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～29）

多くの市民や事業者の感染対策への協力やワクチン接種率の向上等により、緊急事態宣言等の解除後も、全国的に新規感染者数の減少が進み、全国の報告者数は昨年の夏以降で最も低い水準となった。一方、今後、気温の低下により屋内での活動が増えることや、年末に向けて、忘年会等の恒例行事によりさらに社会活動が活発になることに留意が必要である。

本市の感染状況においても減少局面にあり、一週間当たりの新規感染者数は11月9日時点で0.8/10万人であり、10月23日以降、県の警戒基準値（4.0）を安定的に下回っている。また、県全体においても、一週間当たりの新規感染者数は11月9日時点で1.35/10万人となっている。

引き続き、感染者の発生動向に留意するとともに、広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・ 現在の感染状況が改善している状態を維持できるよう、引き続き対応を行ってほしい

（2）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P30～58）

本市における新型コロナウイルスワクチン接種状況は11月9日時点で、全体では、1回目の接種率が79.9%、2回目の接種率が77.9%となった。また、年代別接種率では、最も低い12～19歳においても、1回目の接種率が67.1%、2回目の接種率が61.9%となった。

追加接種（3回目接種）について、国より、2回接種完了者を対象に、2回目の接種を完了してから概ね8ヶ月以上後から行うことが示されており、12月からの開始が予定される。

本市においては、本年4月までに2回目の接種を終了している医療従事者等に対して、今月中に接種券を発送できるよう準備を進めている。また、今後、国から示されるのであろう追加接種に関わる詳細を基に、12月からの追加接種を円滑に始められるように、接種可能な医療機関あるいは集団接種会場の確保等に取り組んでいる。

（委員意見）

- ・ 市民や医療機関に混乱が生じないように、追加接種の準備を進めてほしい

（3）梅毒の発生状況について（資料1 P59～64）

全国における梅毒の報告件数は、2010年以降増加に転じ2018年に7,000例近くとなった後は減少傾向がみられたが、今年は増加傾向である。第41週（10月11日～17日）までに、5,816例の報告がされており、昨年同時期（4,560例）の1.3倍であり、また、1999年の感染症法施行以降最多であった2018年の第41週の報告数（5,365例）を上回った。全国的に増加がみられているが、東京都と大阪、その周辺の地域からの報告が特に多い。

本市における梅毒報告件数も増加傾向にある。第41週時点で76例であり、昨年の年間報告件数（71例）を上回り、第44週（11月1日～11月7日）現在85例となっている。患者の男女別

では、2014 年まではほとんどが男性であったが、2015 年以降女性の患者報告数が増加しており、近年は約 3 割が女性である。患者の年齢階層別では、男性では 20 代及び 40 代が、女性では、20 代が多い傾向が見られた。

本市では、引続き保健センターにおいて無料・匿名で梅毒の迅速検査を行うとともに、ホームページ等で市民への普及啓発を行っていくこととする。

(委員意見)

- ・ 市民への普及啓発を行うとともに、関係機関と連携して有効な対策を講じてほしい

2 10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和3年10月分	令和3年11月分
		報告日 10/4～10/31 現在	報告日 11/1～11/7 現在
2類	結核	9 人 (患者 5 人、潜在性結核 4 人)	3 人 (患者 3 人)
3類	腸管出血性大腸菌	2 人 (10/8、10/27)	
4類	A型肝炎	1 人 (10/19)	
	日本紅斑熱	2 人 (10/14、10/15)	
	レジオネラ症	1 人 (10/11)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人 (10/20)	
	後天性免疫不全症候群	1 人 (10/29)	
	梅毒	19 人 (10/4(3 人)、10/6、10/8(2 人)、10/11、10/12、10/13(3 人)、10/15、10/18(3 人)、10/21、10/26(2 人)、10/29)	2 人 (11/1(2 人))
	破傷風	2 人 (10/14、10/18)	
	百日咳	1 人 (10/29)	
新型 インフル	新型コロナウイルス感染症	201 人	13 人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和4年1月17日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：10月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は680人で、前月比1.18とやや増加した。

手足口病は大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増加、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎はやや増加、感染性胃腸炎、突発性発しんはやや減少、RSウイルス感染症は大きく減少した。

(2) 特記事項

● 新型コロナウイルス感染症は、10万人当たりの1週間新規感染者数が10月23日に県の警戒基準値（4.0人）を下回り、その後も減少傾向が続いている。感染の再拡大を防ぐため、引き続き、マスク着用、手洗い、身体的距離の確保など基本的な感染防止対策を続ける必要がある。また、冬の室内は「換気の悪い密閉空間」になりやすい。感染経路の一つに、感染者の口や鼻から、咳、くしゃみ、会話等のときに排出されるウイルスを含むエアロゾル（小さな水分を含んだ状態の粒子）の吸入があり、エアロゾルは一定時間空気中にとどまりうるため、換気をすることが重要である。

● 手足口病、ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症であるが、今年は例年より遅れて8月下旬（第34週頃）から増加が始まった（図1、図2）。第43週以降はいずれも減少傾向となったが、回復して症状がなくなった後も2～4週間程度、便にウイルスが排出されるため、手洗いの励行、排泄物の適切な処理など感染予防対策を続ける必要がある。

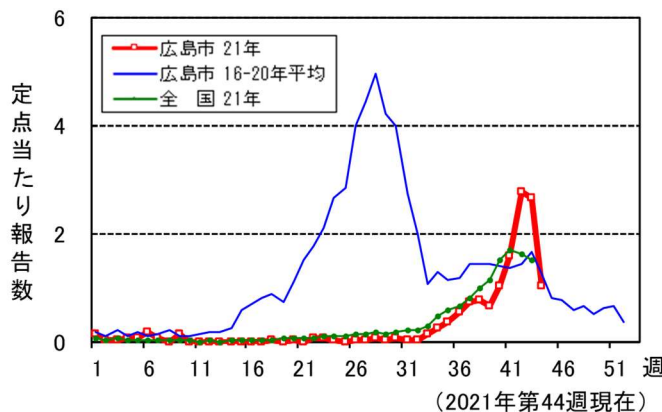


図1 手足口病の流行状況

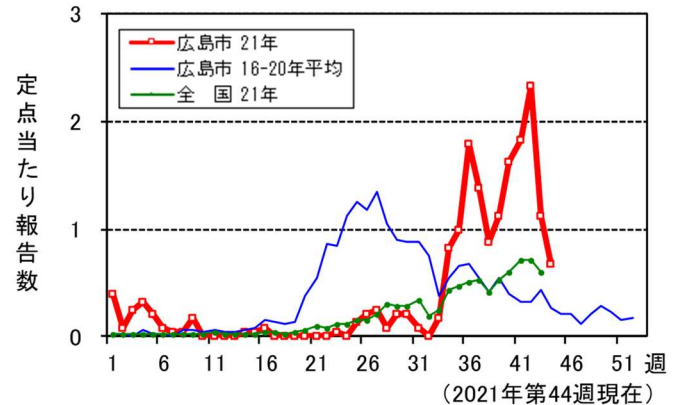


図2 ヘルパンギーナの流行状況

● 今年の梅毒の累計報告数は11月7日現在で85件となり、昨年の年間報告数（71件）を超え、過去最も多かった2018年（105件）に次ぐ多さとなっている（図3）。全国でも同様に2018年をピークに減少に転じたものの、今年は再び増加している。梅毒は、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあり、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。感染したおそれがある場合は、早期に医療機関を受診することが重要である。

(3) 10月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核9件（患者：5件、潜在性結核：4件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：A型肝炎 1件、日本紅斑熱 2件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 19件、破傷風 2件、百日咳 1件

新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 201件

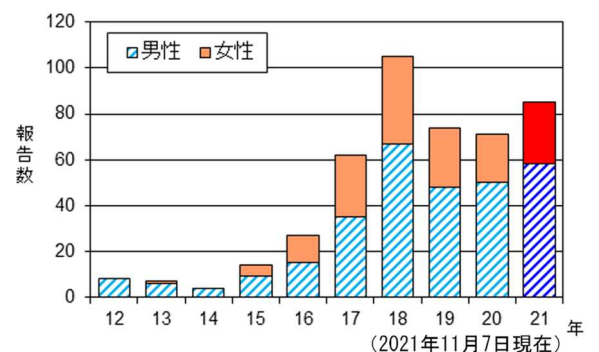


図3 梅毒の年間報告数の推移（広島市）

(4) 今後の流行予測

手足口病・・・【流行終息傾向】 ヘルパンギーナ・・・【流行終息傾向】
梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。
新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

10 月の検査結果判明分

臨床診断名		検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎		アデノウイルス 41 型	6 月	1 人
ヘルパンギーナ		コクサッキーウイルス A4 型	8 月	2 人
流行性角結膜炎		アデノウイルス 53 型	4 月	1 人
		アデノウイルス 85 型	4 月	1 人
その他の呼吸器疾患	(咽頭炎) 感染性胃腸炎	ライノウイルス	6 月	1 人

6 人の患者から 5 種類のウイルス 6 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A4 型 2 株、アデノウイルス 41 型、同 53 型、同 85 型、ライノウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和3年10月解析分)

1. 週報対象(第40週～第43週)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測	No.	疾患名	発生 記号	報告 数	定点 当たり	今後の 予測
1	インフルエンザ		1	0.03		10	流行性耳下腺炎		—	—	
2	咽頭結膜熱		7	0.29		11	RSウイルス感染症		10	0.41	
3	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		31	1.29		12	急性出血性結膜炎		2	0.25	
4	感染性胃腸炎		203	8.47		13	流行性角結膜炎		20	2.51	
5	水痘		8	0.34		14	細菌性髄膜炎		1	0.14	
6	手足口病		194	8.08		15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑		3	0.12		16	マイコプラズマ肺炎		—	—	
8	突発性発しん		22	0.92		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ		166	6.92		18	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(10月)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり
1	性器クラミジア感染症		50	5.56
2	性器ヘルペス ウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		8	0.89
4	淋菌感染症		20	2.22
5	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		11	1.57
6	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性 緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね 1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少 数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和3年10月分)

第40週～第43週(10月4日～10月31日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	9	75	1,366	12,955
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	-	6
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	17	336	2,729
	18 腸チフス	-	-	1	1
	19 パラチフス	-	-	-	-
四類	20 E型肝炎	-	5	18	361
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	2	5	62
	23 エキノコックス症	-	-	2	22
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	8
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	2	7
	28 キャサスル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	1
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	10	107
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	1	18	156
	41 デング熱	-	-	-	5
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	2	6	102	427
	46 日本脳炎	-	-	3	3
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	5
	55 マラリア	-	-	2	21
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	1	20
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	1	33	224	1,732
	62 レプトスピラ症	-	-	11	30
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	4	37	440
	65 ウイルス性肝炎	-	5	15	160
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	9	209	1,631
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	4	20
	68 急性脳炎	-	2	27	278
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	5
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	12	148
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	69	526
	72 後天性免疫不全症候群	1	5	83	847
	73 ジアルジア症	-	-	2	29
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	9	157
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	2
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	6	91	1,094
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	24	230
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	19	83	786	6,233
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	13	119
	81 破傷風	2	2	9	82
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	14	7	100
	84 百日咳	1	2	54	511
	85 風しん	-	-	-	10
	86 麻しん	-	-	-	4
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	4
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	201	13,172	17,622	1,718,417

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。